

議会報告会 報告書

令和7年11月25日

大竹市議会

議長 北地 範久 様

班 名 A班

班 長 中川 智之

議会報告会の実施状況について、次のとおり報告します。

1 開催日時

令和7年11月22日（土） 14時00分～15時30分

2 開催場所

松ヶ原集会所

3 参加人数

9人

4 担当班議員名

班 長 中川 智之

副班長 岡 和明

班 員 寺岡 公章、日城 究、山崎 年一

5 報告会次第

(1) 開会あいさつ

(2) 議会からの報告

総務文教委員会

「家庭用防犯カメラ等の購入費・設置費補助金について」

「西国街道の整備について」

生活環境委員会

「手話言語条例の制定について」、「補聴器購入助成について」

議会運営員会

「岩国基地における空母艦載機の着陸訓練に関する意見書の提出
について」

広報広聴特別委員会

「議会情報の発信（SNS、議会だより）について」

(3) 意見交換

(4) 閉会あいさつ

6 議会からの報告についての主な質疑応答

(回答した質疑)

特になし。

(回答しなかった質疑)

特になし。

(意見・要望等)

特になし。

7 意見交換

(回答した質問)

Q：小方小・中学校跡地などの再開発はどこまで進んでいますか。

A：ほとんど決まっています。小学校跡地は公募しましたが、該当がなく白紙状態です。民間の要望と大型店不許可の市の方針にミスマッチがあります。民間が小さい店を出しても大型店には勝てません。

Q：先週こぶしの里の4周年のイベントがあり、市広報で宣伝していただき感謝します。

デマンド型乗合タクシーの協議が止まっています。渡ノ瀬地区など、廿日市市の住民も利用するこの地区の公共交通の進捗はどうなっていますか。

A：デマンド型乗合タクシーは、地区をまたいで乗れる新たな運用が開始されています。デマンド型乗合タクシーは、地区が主体となり導入に向けて協議し、それを市が支援することになります。

Q：デマンド型乗合タクシーについては、どの方向に進んでいるのか市に尋ねましたが、説明に来てもらえていない。新たな運用で開始されているらしいが、それ以降のことがわかりません。

A：デマンド型乗合タクシーの新たな運用は市広報に載りましたが、引き続き、住民に情報提供するよう市に求めます。

Q：デマンド型乗合タクシーの話は、廿日市市との関係で止まっているのではありません。もう2年以上かかっており、あまりに長いです。

A：デマンド型乗合タクシーを松ヶ原地区が導入すると、大竹栗谷線バスがいらないとなる可能性もあります。既存の大竹栗谷線バスとデマンド型乗合タクシーの並立が難しいので、行政が素早く動けないのではないかと思います。

Q：大竹栗谷線バスは「空気を運んでいる」と言われますが、バスの便数がこれほど少ないと使えません。学校や仕事に遅刻したり、早退したりせざるを得ないのが現状です。ある時まで市と協議していましたが、昨年度に急にプツツと切れてそのままです。

A：市役所は、職員の異動も多いためだと思われます。

Q：市役所より議員の方が分かっていないです。

A：栗谷地区は観光客が来ることを考えてバスはほしいと思っています。松ヶ原地区の住民の皆さんは結局どうしたいのですか。

Q：「来年4月からやりましょう」と言っていたのにパタッと協議が止まったのが納得できません。

A：松ヶ原地区ではどういう公共交通がほしいのか明らかにしてほしい。

Q：議会の認識が今のようなのは残念です。

A：弥栄大橋から先にバス便を延ばして栗谷のバス便を確保する手もあります。

Q：松ヶ原地区はデマンド型乗合タクシーを希望しました。デマンド型乗合タクシー問題で栗谷地区と松ヶ原地区を調整するのは市の仕事ですが返答がありません。しっかり勉強してほしい。

A：松ヶ原地区がデマンド型乗合タクシーを求めているということは分かりました。勉強不足を認めます。

Q：以前「玖波駅の西口には駐車場がなく、やむなく高速道路の高架下に駐めて駅まで歩いている」と言ったら、議員や職員も「知らなかった」と言われました。議員と職員の間には意見交流がないのですか。

A：今後どのように努力していかなくてはならないか理解した。

Q：耕作放棄地問題などの見通しはどうなっていますか。

A：休耕地が増加し、そこに太陽光発電が増加しています。里山の機能不全を何とかなくしてはいけないと感じています。地域計画の骨子はできていますが、実施についてはこれからとなります。

Q：農業の先行きの見通しがなく、松ヶ原地区も半分は休耕地です。地域計画は策定済みですが、具体的な行動計画が不明です。休耕地再生に取り組むために農機具の共同利用の仕組みはできませんか。廿日市市では、農機の共同使用の支援が内定しています。大竹では獣害対策の柵のような小さいものに限られ、前向きの振興策への補助がないのが残念です。積極的な支援がほしい。松ヶ原地区の田畑のほとんどは大竹市域です。住民の4分の3は大竹市、4分の1は廿日市市ですが、住民は一緒にやっており、廿日市市はそのことを理解してこの地区の大竹市民も応援してくれています。

A：農地貸し借り制度の農地バンクの現状はどうなっていますか。

Q：農地貸し借り制度と農機の共同利用と合わせて振興を図りたいと考えています。

(回答しなかった質問)

特になし。

(意見・要望等)

特になし。

8 気付きや反省点

- ・地元行事が集中した時期だったので、報告会開催日がやや遅れました。
- ・デマンド型乗合タクシーなどの公共交通について、地元の要望を議会側が十分把握できていませんでした。
- ・農機具の共同利用といった農業委員会と市の取り組みなど、報告会を開いて出向かなければ聞けない話が聞けました。